

NPO・行政協働事業助成事業 実績報告

団体名	生涯学習サポート兵庫	代表者名	山崎 清治
事業名	ワカモノチカラプロジェクト ～学生による東日本大震災復興支援と地域づくりプログラムの展開～		
協働の相手方	兵庫県企画県民部県民文化局青少年課		

事業実施実績

年 月 日	活 動 内 容
2013年7月	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 7/10、7/24 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホーム） 7/7、7/13
2013年8月	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 8/9、8/14、8/21、8/28 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホームほか） 8/3、8/5、8/7、8/19、8/21、8/25、8/26、8/28、 8月25日 被災地域の物品等販売支援（エコパークあぼし） 8月26日 被災地の今を伝える活動（東播磨青少年本部） 会場：兵庫県いなみ野学園大講堂 活動発表「東日本大震災と私のこれから」 8月29日～30日 地域活動への展開と地域の主体者となる若者の育成 防災アカデミー（兵庫県立大学） 会場：兵庫県立大学学園都市キャンパス 小学生20名、大学生10名参加
2013年9月	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 9/4、9/7、9/11、9/25 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホーム） 9/2、9/4、9/9、9/11、9/14 9月8日 第4回学生未来フォーラム～未来につながる道を作ろう～ 会場：コムスタこうべ神戸生涯学習センター 50名参加 9月16日 ボランティアバス事前研修（こうべまちづくり会館）8名参加 9月17日 // 15名参加 9月20日～24日 ボランティアバス運行（宮城県石巻市にて活動）20名参加 ボランティアバス事後研修（こうべまちづくり会館）15名参加 9月27日
2013年10月	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 10/9、10/23、10/26 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホーム） 10/12、10/26
2013年11月	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 11/13、11/27、11/28、 11月2日 被災地域の物品等販売支援（大阪府立大学） 11月3日 被災地域の物品等販売支援（神戸オリエンタルホテル） 11月10日 被災地域の物品等販売支援（神戸もとまち喫茶室きっさこ） 11月23日～24日 被災地域の物品等販売支援（兵庫教育大学）

日	
2013年12月 12月5日～16日 12月15日	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 12/11、12/25、 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホーム） 12/14、12/25、 被災地域の物品等販売支援（こうベルミネリエ） 被災地域の物品等販売支援（姫路二階町商店街夢市七福座）
2014年1月 1月19日 1月26日	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 1/8、1/22 避難家庭の支援活動（西宮市社会福祉協議会 ぷらっとホーム） 1/6、1/11 被災地域の物品等販売支援（姫路二階町商店街夢市七福座） 被災地の今を伝える活動（兵庫県中播磨県民局総務企画室企画防災課） 会場：兵庫県立大学姫路環境人間キャンパス地域創造機構支部 「よそ者、若者ができる災害支援活動」
2014年2月 2月13日	支援活動を考えるミーティング（兵庫県民会館） 2/12、2/26 情報交流会（兵庫県企画県民部県民文化局青少年課）
3月2日 3月5日～7日 3月11日～13日	被災地の今を伝える活動（はちどりカフェ） 活動報告会、ワークショップ 10名参加 現地交流会 ①3/5（水）～7（金） 1名参加 仙台市～石巻市 ②3/11（火）～13（木） 5名参加 仙台市～石巻市～南三陸町～名振

効果と成果

東日本大震災直後から実施している、学生専用復興支援ボランティアバスの運行を引き続き実施した。震災から年月が経過するに連れて、積極的に参加する学生は減少しているものの、「私にできること」をカタチにすべく集まる、情熱を持った学生がまだまだ存在することも事実である。

ワカモノヂカラプロジェクトでは、被災地を訪れる活動だけでなく、関西からの活動にも重きをおいている。被災地仮設住宅で作成されている手芸品を関西で販売し、その収益を被災地に届ける被災者生活支援活動は、出店先をメンバーの在学する大学の文化祭等で販売を実施した。物品の販売だけでなく、被災地の現状や復興の様子などを伝える場ともなった。また、兵庫県内に避難されている方を対象とした支援も引き続き実施している。

また、これらの活動を企画・運営しているのが若者自身であることが特徴的である。主体的に活動に関わり、被災者と向き合い、行政や地域社会と接点を持つことで、他では得ることのできない財産となっている。また、活動で得た人との交流や組織の中での活動は、社会に羽ばたく前の経験としては、かけがえのないものとなっている。主体的な活動を通して、社会が抱えている課題に気づき、それを解決していくために行動していく、社会の一員としての自覚を育む効果がある。

収支決算書

(収 入)

項 目	金額 (円)
N P O ・ 行政協働事業助成金	1, 000, 000
自己資金	16, 411
合 計	1, 016, 411

(支 出)

区分	項 目	金額 (円)	左のうち助成対象金額 (円)
直 接 経 費	人件費	135, 000	135, 000
	使用料及び賃借料	491, 241	491, 241
	謝金	66, 000	66, 000
	旅費交通費	265, 913	265, 913
	消耗品費	2, 466	2, 466
	小 計	960, 620	960, 620
	間接経費 (一般管理費)	55, 791	55, 791
	合 計	1, 016, 411	1, 016, 411